

慈眼寺

整備だより

第五号

平成十四年十一月

慈眼寺整備委員会

委員長 大野 悟

ごあいさつ

整備委員長

大野悟



寒い日が続いてお
ります。季節は知らな
いうちに冬になった
ようです。今年は豊作
でした。檀家の皆様方
はいかがお過ごしで
しょうか。

早いもので、七月に
本堂も完成し、客殿の
上棟式を九月二十八
日に住職はじめ、委員

顧問の全員でとり行
う事ができました。こ
れも偏に皆様方のご
協力の賜物と厚く御
礼申し上げます。

さて、客殿の完成は
来年の二月を予定し
ております。今回、客
殿の材料を田辺社長
のご協力を得て大黒
柱を檜の尺一寸とし、
女柱を桧の一尺もの
に、また和室周りの柱
十二本を六寸から七
寸にして一層豪華な
ものにいたしました。
屋根瓦も十月十九日
には完了し、正月の皆
様がお参りされる頃
には内装の追い込み

に入っていると思
います。正月三箇日には
内部を見ていただけ
るようになりたいと思
うが、くれぐれも足元
にはご注意ください。

なお、客殿完成後は
境内の庭園、その他の
整備を一年以上かけ
て、委員、顧問の皆
さんと研究して進め
てまいりたいと思っ
ています。

ここでご案内をし
ておきます。四ツ谷の
稲垣志賀子様(健治氏
息女)より、たくさん
の庭石のご寄付を頂
きました。庭園整備に
使わせていただきま
す。この場をお借りし
て厚く御礼申し上げ
ます。
最後に、これから一
層寒さに向かいます。

皆様方におかれま
しはご自愛の上申し
たい年を迎えられま
すようにお願いしま
す。

慈眼寺の本堂・客殿と同じ国産の最高級木材を使って 格安で一般建築も
請け負います ぜひご相談ください

檜のにおいのする本格的な木造住宅

有限会社 田辺建設

電話 0533-86-5475

大本山・総持寺を訪ねて

顧問 伊藤安彦

九月初旬、「高祖道元禅師七五〇回大遠忌」団参に参加して、永平寺と総持寺祖院を訪れた。五〇年毎に行われる大遠忌は、莊厳で盛大な儀式であった。一生に一度の機会に恵まれたことに心より幸せを感じたものである。

曹洞宗の二大本山の一つ永平寺には過去三度参拝したが、もう一方の総持寺には一度も訪れたことがなく、これを機に参拝することにした。

大本山・総持寺は今から約七〇〇年前に曹洞宗四世の瑩山禅師により現在祖院のある能登の地に開創され隆盛を極めたが、明治三年の災禍により大部分を焼失した。当時の本山貫首の大英断により、現在の横浜市鶴見区鶴見に移転再建され、明治四四年一月に遷祖式が執り行われ、その後も諸堂の建立・整備がなされ現在に至っている。

JR鶴見駅の西口を出ると左前

方の丘に薄青い薨が見える。駅からあまりにも近いことに驚いた。市街地を五分ほど歩くと石畳の参道に出る。参道に平行して車道も走っている。山門は昭和四〇年に建立、楼上には観音菩薩や四天王などが祀られていて、鉄筋製の門では日本一とのこと。山門のすぐ右側に三松閣という大きな真新しい伽藍があり、総受付、檀信徒の宿泊施設、大講堂、土産売場などがある。その奥に大小のお堂、伽藍が見える。総敷地十万坪といわれる広い平坦な伽藍配置である。平日の昼時のためか参拝客は少なく、道元禅師大遠忌の表示も見られず、永平寺の賑わいに比べてひっそりとしているのは意外に感じた。

香積台と呼ばれる切妻様式の寺務所にて拝観を申し込むと(拝観料四百円)、私独りに若い修行僧が案内役をつとめてくれた。三年前に大学を卒業して、数名の

志願者と共に午前中の四時間ほ

ど玄関先で立ったままで黙考し、決意の変わらない者だけが入門を許され、期限を定めず修行を続けているという。初期の修行の苦しさを聞いたり、礼拝の仕方や数珠の持ち方を教わったりしながら、待鳳館(客間)、祥雲閣(講堂)、紫雲台(禅師の会見室)、太祖堂(本堂)、仏殿、放光堂、鐘鼓楼、衆寮(修行僧の学問所)、大僧堂(修行僧の座禅道場)を経て百間廊下を通り元のところへもどるコースを、約一時間に亘り案内と説明を受けた。

本寺は境内を車が通れるようになっていたため、後方の太祖堂、仏殿、放光堂間の回廊は地下通路になっており、また前面の百間廊下の途中には三つの門があり、夫々の門の下には床がなく踏み板が置いてある。都会の中の寺院であることを物語っている。

総持寺には、四世貫首として民衆布教に力を注がれた瑩山禅師

の偉業を受け継ぐがごとく境内と

諸施設を一般参拝客や市民に広く開放している。学問所は一般の参禅者の座禅道場として開放され、境内の芝生には子供連れの若い母親たちが弁当を広げ寛いでいる姿も見受けられた。また年中行事として、節分には著名人を呼んでの豆まき、夏には納涼盆踊り大会、十一月には鶴見への移転を記念した式典(稚児行列などもある)、大晦日には参詣者にも除夜の鐘をつかせてくれる等、年間を通じて地域住民との触れ合いを大切にしている。

永平寺が福井県の山深い地に在るのに対し総持寺が都会の市街地に在るという対比は、禅の道を極められた道元禅師と、その教えを広められた瑩山禅師との違いがそのまま現れているように思われた。交通の便も良く、仕事や旅の途中で立ち寄れる場所であり、まだ参拝されていない方にはぜひ訪れてほしいものである。

写真集

お盆前の本堂



お盆の本堂内陣



お盆の仮位牌壇



施餓鬼会(八月十八日)



井戸だけ残った庫裏の跡地

磨かれた技術が光る

墓石・墓地

製造から販売までの一貫システムにより高品質な製品を
専門店だから低価格でご奉仕いたします。

石原石材(株)

春日井市指名・尾張旭市営墓地
名古屋市みどりが丘公園墓地

●ご来店は大泉寺インターを下りて一番奥の店です

営業時間/午前8時30分～午後6時
夜間 ☎(0568)81-8417

●本 店/春日井市大泉寺町潮見坂平和公園前
☎(0568)84-1483 81-1261
FAX 82-1857

●工 場/春日井市大泉寺町潮見坂平和公園前
☎(0568)83-5817

●尾張旭支店/尾張旭市旭ヶ丘町山の手(旭平和墓園前)
☎(0561)54-8581

●名古屋支店/名古屋市長区魏ヶ沢(みどりが丘公園前)
☎(052)877-1486
<http://www.ishiharasekizai.co.jp>

井戸だけ残った庫裏の跡地
向こうは納骨堂



基礎に土台が載りました



私の歩み

篠木町

柴本寛夫

私は、昭和十年、旧篠木村大字関田（現在の篠木町五丁目）で生まれました。自宅のすぐ前の篠木国民学校へ入学しましたが四年間通い、五年生からは愛知学芸大学の付属小学校へ転校しました。やがて地元の青年団に入り、お祭りのときの馬との付合いは一年のみで、次の年からは、神輿に変わったようでしたが、勤めが名古屋市内であった関係で、付合いはなかったし、併せて地元消防団の付合いも全くありませんでした。初老の時、関田の小木田神社のお祭りに久しぶりに参加したら、「お前はお寺が下市場だから」といって又も外様扱いされました。六十六歳の今日まで地元を一度も離れた事がないのに、どうやら地元の者ではないと見られているらしい。先祖を祀るお寺が、

地元メンバーであるかどうかの判断材料になっている事を知りました。かつて、下市場町に住んでいた米国人の墓地研究家によれば、四ツ谷地区内にあった旧墓地で眠る我が先祖の年代の古さは三本の指に入るといわれ、私が六代目であることが判りました。

こういう私は、平成六年元旦より現在に至る八年間、「歩く」ことに専念いたしております。きっかけはその前年の九月、市の成人病検査で、九項目も×印をもらい医者から、薬を飲むか、歩くかの選択を迫られ、歩く方を選んだ次第です。歩き始めた年の六月に、近所の久保田万歩氏（故人）から万歩計を頂き、一日三時間、二万一千歩を目途として、今日まで連続二、九七七日間歩き続けております。その間危篤の母の看護もせず、忘れもしない平成十一年二月

二十一日は、午前三時に起き、東野、朝宮を経て途中友人四人と集合、さらに落合公園、平和公園、春日井ゴルフ場を巡り犬山の桃太郎神社に到着し、此処で記念写真を撮とり、お店で田楽を食べ、ビールで乾杯している時に母の死を知らされました。急いでタクシーで帰ったものでした。葬儀は、

妹の嫁ぎ先の海部郡飛鳥村で、慈眼寺のご住職にお世話になって営み、位牌と一緒に持ち帰った遺骨は、潮見坂の墓地に納めました。

これを契機に、潮見坂参りを始め、勿論歩いてではありませんが、これも今日まで一、二六四日になりました。禅の世界では、座禅修行があつて、ひたすら座ると聞いておりますが、私はひたすら歩き続けております。とりあえず平成十六年のお施餓鬼には、二、〇〇

〇日連続記録を達成することを目標に、楽しみながら頑張っております。さらには愛知万博までにはどれだけというように、老いてなお若さを保つには、何か目標を持って暮らすことが必要ではありませんか。

八月十七日記

合掌



良いものをよやく
石材店 聖
TEL 0587(56)2112
代表 伊藤大二
電話一本ですぐ参上します

思うこと

委員 伊藤弘夫

平成十二年の檀家総会において、慈眼寺整備が承認され、整備委員会が発足して、丁度二年になりました。その間檀家各位の多大なご協力と、委員長をはじめ役員の皆様の献身的な働き、それに応える建設業者さんの並々ならぬご支援もあり、今年七月には豪壮な本堂も完成し、来春には今までの庫裏に代り、これまた立派な客殿が出来上がる予定で工事が進められています

今年には道元禅師の七五〇回大遠忌の年にあたり、九月には永平寺と総持寺への参拝に参加させて頂き、短い時間ではありましたが、立派な寺院を拝観し、法話を拝聴でき、日頃無信心な自分としても少しは身が引き締まった思いがしました。こんな事も今回の行事に委員に任命され、お寺さ

んに対する関心を持つようになったからかと思っております。

私もつい先年まで、寺裏島に住んでおりどこへ出かけるにもお寺の裏を通っておりますが、特にお寺さんだからと特別な感情で見る様なことは記憶にありません。然し寺で行われる年中行事(盆の行事、春秋の彼岸、大般若会等)にはお参りさせて頂き、花祭りには甘茶を頂いて「千早振る…」の短冊を書いた事も懐かしい思い出です。また、父が毎年正月二日には、必ず年始のあいさつに何っていたことも記憶に残っております。

その他、村の行事の会場として種々使用させて頂いておりました。

終戦後に青年会による素人演芸会の会場、消防団の出初式の後で行われるお日待ちでは、家にあった大きな釜を若い衆が取りに来て、庫裏の炊

事場を借りて食事作り、料理作りをした事など、若かりし頃の思い出が、おぼろげながらも少しずつ蘇ってまいります。

新装なった本堂、客殿でも有効に利用され、コミュニケーションをはかる場としても活用されればと思っております。

写真集続き

ほぼ組みあがった客殿



上棟式(九月二十八日)



寄付勧進報告

会計 伊藤久幸

建設中の入母屋造の客殿が晩秋の空に映えてかがやいてきました。会計事務も順調に進んでおります。

寄付申込口数三、八八二口、振り込まれました浄財は、各金融機関合計で、一億八、九七六万円で、約九割八分の振込みを頂きました(十一月五日)。

支払いにつきまして、今までに本堂および位牌堂の建設費、内装・備品等に一億二、九五三万円、客殿建設費は、あと完成時支払分を残して四、四二五万円、合計一億七、三七八万円を支払いました。

檀家の皆様方のご協力に感謝しております。色々なご都合があるのかとは思いますが、まだお振込み

を頂いていない方は、平成一五年三月末までに振込みをしていただきたくお願い申し上げます。

和尚敬白

住職 春日井浩道
夏から一足飛びに冬になつてしまいました。皆様方にはお元気で過ごしでしょうか。

去年の今ごろは、まだ本堂の基礎打ち工事中でどんなものが出来るのか、若干漠としておりました。それが実際出来上がつてみると、さすが田辺社長が豪語したただけのことあって、これなら三百年は充分耐えられそうな、立派な本堂となりました。今年のお盆はこの新しい本堂で迎える事ができ、皆様方にも新築の香りを楽しんでいただきました。一番有難いのは位牌堂が広くなったことで、い

ままで乱雑極まりなかった位牌檀がすつきりと、しかも住所別に並べる事ができました。さぞかしご先祖様たちもくつろいでおられると思います。ただ床が真っ白すぎて少しの汚れも目立つてしまうのには閉口しております。せいぜい掃除に力を入れてまいります。

慈眼寺のホームページを作りましたので、ご覧いただければ幸いです。まだ未完成ですが、おいおい拡充していきます。
<http://www.ma.ccnw.ne.jp/jigenji/>

編集後記

宗門の開祖、道元禅師の七五〇回大遠忌という記念の年に念願の本堂が完成、引き続き客殿も来春の完成を目指して着々と工事は進んでおります。この間計画から工事までいろいろお知らせして参

りました「慈眼寺整備だより」も今回で第五号の発行となりました。これも偏に檀家はじめ関係の皆さんの熱意あるご支援のお陰と思っております。来年もより充実した「だより」の編集に努めてまいりますのでご協力ください。皆様のご投稿をお待ちしております。それでは良いお年を。(編集子)

「慈眼寺整備だより」 第5号

発行日 平成14年11月15日
発行人 春日井市場町5-7-2
慈眼寺整備委員会
委員長 大野悟
編集庶務 伊藤忍
連絡先 0568-81-6801